

令和5年度 事業報告

公益財団法人亀岡市スポーツ協会は、「スポーツに親しみ、スポーツで笑顔、スポーツで元気な亀岡」の実現を目指して、市民スポーツのより一層の推進と競技力の向上のため諸事業を実施した。

また、9回目となる京都亀岡ハーフマラソン大会は、4年ぶりに全種目を取り入れて、関係団体と連携し実施した。

【重点事項】

1 運営基盤の整備並びにスポーツ協会の機能の充実

事業の推進に必要な財源を確保するため、賛助会員を募り、多くの会員に御支援をいただいた。

また、本協会が所有するスポーツ用具の貸出しに伴う使用料や、印刷機の使用に伴う使用料により、事業充実のための用具の補充や加盟団体の事業支援を行った。

2 市民スポーツの推進

誰もが気軽に参加できるスポーツ事業として、生涯スポーツデーや、グラウンド・ゴルフを楽しむ会、スポーツフェスティバル等を実施した。亀岡市民駅伝競走大会は、例年の開催場所が工事の関係で使用できないと判断し、亀岡運動公園競技場において小・中学生のみを対象にして規模を縮小開催し、生涯スポーツの推進、市民の健康増進を図った。

また、当協会のホームページや広報かめおか、新聞等でスポーツの推進に関わる情報の収集と提供を行った。加盟団体には、スポーツ活動に対し、運営活動補助金や事業補助金を交付し、スポーツの推進に努めた。

3 競技力の向上

第46回京都府民総合体育大会は、各競技団体において選手派遣強化費を活用し、選手強化に努め、競技力の向上を図った結果、選手をはじめ関係者の御努力により、総合第2位と大健闘した。

各競技において、教室や大会等の実施により選手強化に努め、多数のジュニア選手が活躍することができた。

4 指導者の資質の向上と養成

指導者の資質の向上を図るため、「ハラスメントを必要としないスポーツ指導を目指して」というテーマで、立命館大学スポーツ健康科学部所属の友智氏をお迎えし、講演会を行った。

5 スポーツ少年団の育成と拡充

スポーツ少年団は、活動強化事業として亀岡運動公園周辺の清掃活動の実施と、他種目交流事業としてドッジビー、モルック、ペタンク競技を実施し、団員相互の交流を深めた。また、JSP0公認コーチングアシスタントへの資格移行手続きの最終年度になったため、資格習得に必要な情報を配信した。

6 都市間交流事業の推進

西京区と亀岡市は、軟式野球競技、グラウンド・ゴルフ競技において都市間交流事業を実施した。

7 指定管理施設の有効活用

本協会が管理している社会体育施設は、安全・安心な状態で利用できるよう維持管理に努め

た。また、月読橋球技場東側の三軒屋に24時間使用可能な新設のトイレが完成し、亀岡市から管理業務を受託した。また、国際広場球技場のテニスコートにおいて、コートの全面改修が行われ、ハードコートから砂入り人工芝コートに変わり、4月中旬から供用開始となる。